

くまわれさん
熊群山の石段

昔、熊群山には鬼がたくさん住んでいました。

鬼たちは里に出ては人を捕えて食べていました。

ある時、村人の難儀を伝え聞いた

権現様（神様）が山にやって来ました。

そして鬼たちに「人を食うのをやめてここから立ち去ってほしい」

と言いました。

しかし鬼たちは

「この山は古くから私たちが住んでいた所です。

いかに権現様の命令であろうとも従いかねます」

と抵抗した。

そこで権現様は

「それでは仕方がない。私もここで一緒に暮らすとしよう。

だがそのためには住むところが欲しい。

手始めに石段を百段築いてくれまいか。

ただし一夜のうちのだ。

もし一夜のうちに築きあげたら、

今まで通りに人を食ってもよろしい。

そのかわりできなかつたら山を去ってもらうおう」

と鬼たちに提案しました。

鬼たちは喜んで「それはたやすいこと」

と約束をし、夜になると早速仕事をはじめました。

石段はみるみるうちに築かれていき、

真夜中には八〇段にも達する勢いでした。

これを見てあわてた権現様は、

バツチョロ笠を手に山頂にかけ登りました。

山頂に着いた権現様は、

バタバタと笠を叩いて鶏の羽音をまね、一声高く

「コケコウロー」と叫んだ。

これを聞いた里の鶏たちは、一番鶏に続けとばかり一斉に鳴き始めました。

びっくりした鬼たちは

「しまった。もう夜が明けたか。あと一段で百段というのに」

こういって鬼たちは約束通り山を去っていきました。

今の熊群権現の石段が、この時鬼が築いた石段といわれています。